

令和元年（2019年）8月15日

各報道機関 様

次のとおり資料提供しますのでよろしく申し上げます。

行 事 等	手足口病およびヘルパンギーナの流行について(警報)
日 時	令和元年（2019年）8月15日（木）15時00分
場 所	
出 席 者	
内 容	滝川保健所管内において、1 定点医療機関あたりの手足口病およびヘルパンギーナ患者数が一定数を超えたため、警報を発令します。
参 考 (経緯など)	感染症発生動向調査において、警報・注意報を発令する際は、原則、毎週金曜日に公表をしていますが、地域住民に対し早期に注意喚起を行うため、保健所で取りまとめた患者数を速報値として報道機関に情報提供を行っています。
取材（報道）に あたってのお願い	管内住民への周知について、よろしく申し上げます。
担 当	北海道空知総合振興局保健環境部滝川地域保健室 (北海道滝川保健所) 健康推進課長 成田 直子（電話 0125-24-6201）

手足口病の流行について（警報）

令和元年（2019年）8月15日（水）15時00分

北海道滝川保健所

電話：0125-24-6201

道では感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき感染症発生動向調査を実施しておりますが、令和元年（2019年）第32週（令和元年（2019年）8月5日～令和元年（2019年）8月11日）において、滝川保健所管内の1定点医療機関あたりの手足口病患者報告数が、警報基準である5人以上となりましたのでまん延を防止するため警報を発令します。

今後、滝川保健所管内において流行がさらに拡大する可能性がありますので、感染予防に努めるようお願いいたします。

記

1 手足口病の予防

治癒後も3～4週間は原因ウイルスが便中に排出され、感染しても発症しない例（不顕性感染）も多いため、感染者との接触を避けることは現実的に困難であり、特別な予防法はありません。手洗いやうがいを励行するとともに、集団生活ではタオルなどの共用は避けましょう。

2 手足口病とは

コクサッキーA16型やエンテロウイルス71型などの伝染性ウイルスに感染して起こる感染症で、飛沫感染や経口感染（糞口）を起こします。発熱と口腔、咽頭粘膜に痛みを伴う水疱ができ、唾液が増え、手・足末端や臀部に水疱が見られるのが特徴です。

水疱は1週間から10日で自然消退しますが、ごくまれに髄膜炎や脳炎を生じることがありますので、持続する発熱や嘔吐、頭痛がある場合は注意が必要です。

3 その他

(1) 最近5週における定点医療機関からの手足口病患者報告状況

（表示は、「報告数(患者/定点)」単位：人）

	第28週 (7/8～7/14)	第29週 (7/15～7/21)	第30週 (7/22～7/28)	第31週 (7/29～8/4)	第32週 (8/5～8/11)
滝川保健所	2 (0.50)	1 (0.25)	8 (2.00)	18 (4.50)	36 (9.00)※
全道	475 (3.44)	643 (4.66)	1166 (8.45)	1912 (13.86)	- (-)
全国	40139 (12.67)	38121 (12.03)	42576 (13.44)	33329 (10.54)	- (-)

※第32週の患者報告数は速報値。

第31週までは、北海道感染症情報センター公表のデータによる。

(URL：<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>)

(2) 手足口病警報とは

厚生労働省の感染症発生動向調査により把握した、全道の定点医療機関を受診した手足口病患者数が、国立感染症研究所において設定した警報レベルの基準値に達したときに発令し、大きな流行の発生や継続が疑われることを指します。

<手足口病の警報レベル>

	開始基準値	終息基準値
定点あたり患者数(人)	5	2

ヘルパンギーナの流行について（警報）

令和元年（2019年）8月15日（木）15時00分

北海道滝川保健所

電話：0125-24-6201

道では感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき感染症発生動向調査を実施しておりますが、令和元年（2019年）第32週（令和元年（2019年）8月5日～令和元年（2019年）8月11日）において、滝川保健所管内の1定点医療機関あたりのヘルパンギーナ患者報告数が、警報基準である6人以上となりましたので、まん延を防止するため警報を発令します。

今後、滝川保健所管内において流行がさらに拡大する可能性がありますので、感染予防に努めるようお願いいたします。

記

1 ヘルパンギーナの感染予防

治癒後も3～4週間は原因ウイルスが便中に排出され、感染しても発症しない例（不顕性感染）も多いため、感染者との接触を避けることは現実的に困難であり、特別な予防法はありません。手洗いやうがいを行っていると同時に、集団生活ではタオルなどの共用は避けましょう。

2 ヘルパンギーナとは

ヘルパンギーナは、急性のウイルス性咽頭炎で乳幼児を中心に夏季に流行する夏風邪の代表的疾患です。特に4歳以下の小児に多く、主に飛沫感染・経口感染（糞口感染）し、2～4日の潜伏期を経て突然の発熱とともにのどの奥に痛みを伴う水疱・潰瘍をきたします。

重症化することは少なく、2～4日で症状は落ち着きますが、熱性けいれんやのどの痛みによる食欲不振・脱水症を起こすことがあります。

また、まれに無菌性髄膜炎やウイルス性心筋炎などを合併することもあるので、頭痛・嘔吐や様子がおかしいといった症状がある場合は注意が必要です。

3 その他

(1) 最近5週における定点医療機関からのヘルパンギーナ患者報告状況

(表示は、「報告数(患者/定点)」単位：人)

	第28週 (7/8～7/14)	第29週 (7/15～7/21)	第30週 (7/22～7/28)	第31週 (7/29～8/4)	第32週 (8/5～8/11)
滝川保健所	0 (0.00)	1 (0.25)	1 (0.25)	19 (4.75)	26 (6.50)※
全道	75 (0.54)	102 (0.74)	179 (1.30)	309 (2.24)	- (-)
全国	9161 (2.89)	8043 (2.54)	9435 (2.98)	7750 (2.45)	- (-)

※第32週の患者報告数は速報値。

第31週までは、北海道感染症情報センター公表のデータによる

(URL: <http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kaisen/index.html>)

(2) ヘルパンギーナ警報とは

厚生労働省の感染症発生動向調査により把握した、全道の定点医療機関を受診したヘルパンギーナ患者数が、国立感染症研究所において設定した警報レベルの基準値に達したときに発令し、大きな流行の発生や継続が疑われることを指します。

<ヘルパンギーナの警報レベル>

	開始基準値	終息基準値
定点あたり患者数 (人)	6	2